

令和8年度 第1回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年5月14日(木) 14時00分から16時45分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 村井 秀行、桐井 晶、鈴木 秀夫、櫻井 康人、広瀬 恵子
馬淵 吉晴、富田 昌和、鳥居 浩幸、森川 誉進、三ツ井 りか
鈴木 康子 三浦 一哲
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 鈴木 公一（校長）、松島 賢（教頭）、杉山 貴和（教頭）
池内 伸彰（主幹教諭）、井上 佐矢子（CSディレクター）
- 6 アドバイザー 佐藤 拓男 中部協働センター所長
- 7 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 8 傍聴者 なし
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 会議記録
司会から、委員全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

○会長挨拶

10年目の記念として、浜松学芸高校書道コースの素晴らしいパフォーマンスを見せていただいた。本校の卒業生もいたということで、強くたくましく育っていったものと思う。

令和4年から学校運営協議会を取り入れ、5年目になる。第2期の中間となる2年目である。さらに充実させていきたい。市からも大きな予算も投じられている。

主な3つの役割の内の1つが、校長の学校運営方針を承認することである。2つ目は学校運営に必要な支援をすること、3つ目は児童生徒の健全育成に関することである。それを念頭に置いて学校運営協議会を運営していきたい。

本年度は、休日の部活動の地域展開、先生方の働き方改革、第4次浜松市教育総合計画について話し合っていきたい。そして、先生方と一緒に、地域の一員として、保護者としてできることをしていきたい。

○校長挨拶

子供たちは、それぞれの思いをもって頑張っている。初等部は、1年生が新しい環境でも元気に登校でき、学校生活に慣れてきている。1年生を迎える会では、各学年の工夫がなされた出し物があった。感情を素直に表現する姿が見られ、ありがたかった。6年生が企画をしてくれた。次のSFに向けて頑張ってくれている。中等部は、落ち着いた態度で、優しい印象を受ける。7年生は部活動が始まり頑張っている。8年生は野外活動に向けて準備をしている。9年生は修学旅行に行ってきた。2日目のタクシー研修が記憶に残ったという。

本校の学校活動にご理解をいただくとともに、よりよい学校になるために忌憚のないご意見をいただきたい。

○浜松市学校運営協議会規則の確認

○自己紹介

○前回会議録の確認

熟議

(1) 学校運営の基本方針

- ・ 全校で750名、全32学級。子供は明るく素直で、責任のある仕事についてしっかりと取り組んでいる。きまりを守って生活したり、集団行動も整然としたりできる。幼いものや立場の弱いものに自然と優しく接することができる。課題は、メンタル面でのたくましさや良好な人間関係を築く力にやや欠けることがあげられる。

学校運営協議会は、学校として非常にありがたい組織である。学校は白黒つけないととらえられがちである。そのようなこともご理解いただき、外部に対して橋渡しをしてくださり、勇気をいただく。できるかぎり誠実に学校の実態をお伝えしたいと思う。

私たち教員は、「ノブレス・オブリージュ」という責務があると思う。大学時代の恩師に「後から来る人の方が偉いということを忘れるな。」という言葉いただいた。その言葉を忘れずに、ずっと考えてきた。ノブレス・オブリージュを担うことは苦労や覚悟を伴うが、この言葉はそれを表していると思う。

野秋教育長の重点施策に不登校対策がある。本校では、「さんさん教室」から「さんさんルーム」が設置され、担任が配属された。これは、本校と白脇小学校だけで、期待が込められている。不登校の子供たちは「なんでか分からないけど学校が怖い。」ということが多い。学校というシステムに問題があるのではないか、「責任の個人化」という社会的背景があるのではないかといわれる。学校教育は「個別最適化」に向かっていく。ICTを通して、個人にベストマッチな問題が出される時代がすぐそこに来ている。しかし、そうはならないと考えている。「学校の中に、学校ではない場所を作ろう。」ということが「さんさんルーム」である。美術館との連携を考えており、今週から始めていく。きっかけの一つとしたい。高校入試システムなど、急に変えることができないこともあるが、子供たちが希望をもって本校を旅立ってほしいと思う。

いろいろな立場や視点からご意見をいただきたい。(校長)

- ・ 不登校対策については、PTA本部でも本気で考えている。その道のプロと触れ合う機会があるとよい。心の中の火を灯してほしい。(広瀬委員)
- ・ 朝の見回りをしていると「500円を拾った。」と話しかけてくれた。学校の外側でも見守れるように活動している。大人には、後から来た若者を守り育てる義務がある。浜松まつりでもそのように話した。自分が何のためにやっているのか、時々立ち返って考えている。地域と学校がつながる機会があるとよい。(森川委員)
- ・ 子供たちとすれ違うぐらいしかタイミングがない。(富田委員)

- ・ 子供のときを思い返しても、いつも見かける人に守られているという思いがあった。ぜひ見守ってほしい。子供たちの自己肯定感も高まると思う。(広瀬委員)
- ・ 芝桜再生プロジェクトに参加する。(三ツ井委員)

(2) いじめ防止基本方針

- ・ いじめ防止基本方針について、資料を用いて説明(高山先生)
- ・ 個別の詳しい事例については把握していない。(鈴木康子委員)
- ・ 発達段階があるが、自分の思いを伝える言葉で傷つけることが多い。(高山先生)
- ・ 以前の熟議で、自分のいじめの定義が以前とは違うことを知った。陰湿ないじめはないということを知って安心した。(馬淵委員)
- ・ 基本方針を読むと、先生方の苦勞が伝わる。これだけのことをやることで、いじめを防いでいると感じる。(三浦委員)
- ・ 常識的な世界を取り戻さないといけない。掃除をしていないことを注意されたことでもいじめになった事例がある。法の理解の仕方について考えていかないといけない。(鈴木校長)
- ・ 知人から「中部学園はいじめの件数が多いと知り驚いた。」と聞いたことがある。いじめの定義を上手にすり合わせることで、先生や子供たちを守ることになる。(広瀬委員)
- ・ 本協議会を、このような情報を共有し、学校へ伝えていく場としていきたい。先生方は大変だが、目を配っていただきたい。(鈴木秀夫委員)

(3) 夢育やらまいか事業

- ・ キッズビジネスチャレンジ等について、資料を基に説明(松島教頭)
- ・ キッズビジネスチャレンジはとてもよい取り組みである。しかし、浜松城公園は関係者しか来ないし、非常に寒い。以前は、ザザシティでやっていた。再考願いたい。(村井委員)
- ・ 検討させていただく。(松島教頭)

(4) 自己目標の設定

- ・ 資料を基に説明(杉山教頭)
- ・ よいと思う。(桐井委員)

連絡事項

- ・ 第2回学校運営協議会 9月30日(水) 14:00
 - ・ 部活動の新人戦壮行会の参観
 - ・ 部活動の地域移行などについて熟議

オブザーバーより(佐藤所長)

初めて本協議会に参加し、非常に高いレベルの熟議がされていると感じた。また、美術館に見学に行くなど恵まれた地域であることを子供たちにも教えてあげるとよい。

夏まつりのボランティアを募集する。活動を通して子供たちはどんどん変わっていく。ぜひお声かけいただきたい。地域の方の見守りもしていただける場にもなる。